科目番号	科目名	看護学特別研究		担当教員：グレッグ美鈴、鈴木啓子、小西清美、玉井なおみ、宇座美代子、永田美和子、流郷千幸、田場真由美、阿部正子、木村安貴	
博看 011	科目名（英語）	Research in Nursing Science			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
6	1～3 年	通年	2	各研究室	各指定時間

1．授業の概要

主とする分野（基盤看護学分野、応用看護学分野、生活支援看護学分野）の特論の学習を基に研究の遂行に必要な能力を高める。具体的には、個々の興味・関心に基づき累積した学習成果を活用して研究課題の焦点化をはかり、研究方法の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づきデータを収集し、分析・考察し新たな知見を提示する。最終成果として、学位論文を作成し、発表、審査を受ける。これらの一連の研究過程を通し、研究者として自律して研究活動を行い、教育を担い得る能力、専門的な業務に従事するために必要な研究能力と看護専門職者としての研究的態度を修得する。

2．到達目標

1. 国内外の文献レビューし、研究課題を明確にする。
2. 研究目的、目標に合致した研究方法を選択する。
3. 文献検討の結果に基づき、専門性の高い研究計画書を作成する。
4. 研究方法を正確に適応し、データを収集・分析する。
5. 構成要素に沿って博士論文を作成する。
6. 看護専門職者に必要な研究能力を身に着ける。

3．授業の計画と内容

90 回／3 年の演習形式の授業を基本に論文指導を行う。具体的には下記のとおりである。

第 1～30 回	1 年前期：国内外の関連文献の精読を通して専門性を深めるとともに、自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。合わせて研究課題及び方法論の明確化を図る。研究題目、研究方法については、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加する合同検討会において発表し、ディスカッションを行う。前学期終了時に、研究実績報告書を研究指導教員に提出する。 ・研究題目（仮）提出（7 月） ・合同検討会：研究の進捗状況発表（研究課題及び方法等）（7 月） ・研究実績報告書提出（8 月）
	1 年後期：研究課題、研究方法に係わる文献検討に基づき、研究デザイン、研究方法を検討し研究計画書を作成する。研究計画については、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加する合同検討会（研究計画発表）において発表し、ディスカッションを行う。後学期終了時に、研究実績報告書を研究指導教員に提出する。 ・合同検討会：研究の進捗状況発表（研究計画）（2 月） ・研究実績報告書（1 年次の自己評価含む）提出（2 月）
第 31～60 回	2 年前期：研究計画書審査員会に研究計画書を提出し、研究計画の審査を受ける。審査に合格後、研究計画について倫理委員会による倫理審査を受ける。倫理審査委員会から研究倫理審査の承認を受けた後、研究計画書に基づき、データを収集する。データ収集・分析の妥当性については、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加する合同検討会において発表し、ディスカッションを行う。前学期終了時に、研究実績報告書を研究指導教員に提出する。 ・研究計画書提出（4 月） ・研究計画書審査受審（4 月） ・倫理審査申請書（研究計画書含む）提出（5 月） ・倫理審査受審（5 月） ・合同検討会：研究の進捗状況発表（データ収集状況・分析）（7 月） ・研究実績報告提出（8 月）

第 31～60 回	2 年後期：研究計画書に基づきデータを収集・分析する。データ収集・分析の適切性を検討する。研究の進捗及び成果については、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加する合同検討会において発表し、ディスカッションを行う。査読制度のある学術誌へ原著論文を投稿する。後学期終了時に、研究実績報告書を研究指導教員に提出する。 ・合同検討会：研究の進捗及び成果に関する第 1 回中間発表（2 月） ・査読制度のある学術雑誌へ原著論文を投稿 ・研究実績報告書（2 年次の自己評価含む）提出（2 月）
第 61～90 回	3 年前期：結果・考察及び結論の論述を行い、博士論文を作成する。予備審査に向けて、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加する合同検討会において発表し、ディスカッションを行う。前学期終了時に、研究実績報告書を研究指導教員に提出する。 ・博士論文審査願及び論文題目提出 ・合同検討会：研究の進捗及び成果に関する第 2 回中間発表（6 月） ・研究実績報告（8 月）
	3 年後期：結果・考察及び結論の論述をし、博士論文を作成する。博士論文審査委員会による予備審査において、研究発表を行い、口述審査を受ける。予備審査に合格後、学生は博士学位論文及び副論文（学術誌に掲載された論文もしくは掲載予定論文については掲載証明書）を提出する。博士論文審査委員会による学位論文審査を受ける。その後、公開論文発表会にて発表及び質疑応答を行う。そして口頭試問による最終試験を受ける。最終試験終了後、研究実績報告書を研究指導教員に提出する。 ・博士論文予備審査（10 月） ・博士論文審査（12 月） ・公開論文発表会（2 月） ・最終試験（2 月） ・最終研究実績報告書（3 年次の自己評価含む）提出（2 月）

・グレッグ美鈴

変化する社会の要請に応える専門職としての看護職者のキャリア開発を、個人及び組織の視点から捉え、看護キャリア開発のあり方を学術的に探究する。そのためにグローカルにどのような研究が必要かを国内外の文献検討によって明確化する。研究課題にふさわしい研究デザイン及び研究手法を選択し、研究参加者に十分な倫理的配慮をした研究計画を立案する。研究計画に基づき研究を実施、データ分析を行う段階では、研究の厳密性を確保する。自律して論文執筆を行い、看護キャリア開発のあり方に学術的に貢献する研究として世に問うことのできる能力を養う。さらに研究指導を受ける一連のプロセスにおいて、後進の育成方法を身につけるとともに、自身のキャリア開発を熟考する。

・鈴木啓子

精神的健康問題とその関連要因を探究し、健康問題を抱える人の生活の質の向上に寄与することのできる研究課題と研究方法を地域文化を踏まえて探究する。国内外の文献の検討を通して最新の研究の動向を探究し、諸課題を概観した上で精神保健看護に関する自己の研究課題と研究目的を明確化し、目的に即した研究方法を適切に検討し研究計画を立案する。計画書に基づき研究の一連の過程を倫理的に実施し、研究成果については論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文として執筆し、自律して研究を推進する能力と共に教育を担い得る能力を養う。研究成果は、国内外の学会や学術誌等で公表し、精神保健看護学の発展及び看護実践の理論構築に寄与する能力を培う。

・小西清美

女性及び妊産褥婦に関する健康問題を解決するために、女性ホルモンの変動に伴う心身への影響を踏まえ、女性自身が持っている力を発揮できる助産ケアを提供できるエビデンスに基づく助産師の実践力向上支援を探究する。国内外の文献の検討を通して、最新の研究の動向を探究し、各自の研究課題を明確化し、研究方法の決定、研究計画書を作成する。研究計画に基づきデータを収集し、分析・考察し新たな知見を提示する。一連の研究過程を通し、研究者として自律して研究を遂行できる能力を修得し、母性・助産学の発展及び地域文化に基づく看護介入モデル構築に資する研究の発展に寄与する能力を養う。

・玉井なおみ

がんサバイバーシップの概念を基に、がんの診断時期から終末期までがんとともに生きる人々とその家族に対する援助方法や課題解決の方略を探究し、概念や理論を考究する。国内外の文献の検討を通して最新の研究の動向を探究し、自己の研究課題を焦点化したうえで研究デザインを考究し、研究計画を立案する。作成した研究計画書に基づき、データ収集、分析を行い、研究を遂行する過程を学習する。得られた成果を論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文として執筆する過程を通して、自立して研究を推進できる能力と共に教育を担い得る能力を養う。研究成果は、国内外の学会や学術誌等で公表し、がん看護学の発展及び地域文化に基づく看護実践の理論構築に寄与する能力を培う。

・宇座美代子

地域の地理的・歴史的・文化的背景を踏まえつつ、地域における健康課題と生活文化の関連要因を探究し、地域で生活する人々の健康支援の方法論を探究する。そのために国内外の文献検討により最新の研究の動向を把握し、自己の研究課題と研究目的を明確化する。研究課題や目的にふさわしい研究方法を選択し研究計画を立案する。立案した計画書に基づき研究の一連の過程を倫理的に実施し、研究成果については論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文として執筆し、自律して研究を推進する能力と共に教育を担い得る能力を養う。研究成果は、国内外の学会や学術誌等で公表し、公衆衛生看護学の発展及び沖縄のケアリング文化に基づく看護実践の理論構築に寄与する能力を培う。

・永田美和子

高齢者の健康問題に関連した要因を探究し、実践的に解決できる研究成果を目指す。特に、地域で生活する高齢者の健康及び生活の質の維持向上の支援に関して、地域のケアリング文化に基づく新たな地域包括ケアシステムの構築につながる研究課題について、研究目的に即した適切な研究を検討し研究計画を立案する。質的帰納的研究方法と多変量解析を用いた統計的手法を組み合わせて研究を行う。博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、高齢者看護学及び沖縄のケアリング文化に基づく看護介入モデルの構築に寄与する能力を養う。

・流郷千幸

子どもの権利を保証する観点から、医療を受ける子どもと家族が抱える課題を探究し、実践的に解決できる研究成果を目指す。そのために、医療を受ける子どもの不安や痛み、対処能力を引き出すプレパレーションについて学習し、フィールドワーク及び国内外の研究成果を通して自己の課題を明確化する。研究目的に即した適切な研究計画を立案し、質的帰納的研究方法と統計的手法を組み合わせて研究を行う。博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、小児看護学の発展に寄与する能力を養う。

・田場真由美

公衆衛生看護学の視点から住民や地域の身体的、精神的、社会的健康課題と保健師の活動の関連要因を探究し、地域文化習慣と貧困や障害者、高齢者等の弱者支援に活かせる公衆衛生看護の向上に寄与できる実践モデル、研究課題・方法を探究する。そのため、国内外の文献と我が国のビックデータ、社会的課題から最新の研究の動向を概観した上で、自己の研究課題と研究目的を明確にし、適切な研究方法、研究計画を立案する。研究計画書に基づき研究過程を倫理的に遂行し、その成果を論理的一貫性、新規性、独創性、実践可能性のある博士論文として執筆する。また、その成果を国内外の学会や学術誌にて公表し、自律して研究を遂行する能力と協働する能力及び公衆衛生看護学の発展と沖縄のケアリング文化に基づいた看護実践に活かす看護理論の構築に寄与する能力を培う。

・阿部正子

リプロダクティブ・ヘルスとジェンダーの視点から、最先端医療技術の発展・応用範囲の拡大に伴う個人や社会、未来に与える影響、人間の尊厳や法令への準拠など倫理上の課題を掘り下げ構造化する。さらに問題解決に寄与しうる専門的看護援助や教育方法、地域の文化・風土の特性を視野に入れた看護実践について国内外の研究成果を広く概観し、看護独自の支援理論やケア技術を探究する。これらのプロセスを通して【研究する人間】としてのセンシティビティを養い、エビデンスに基づいた看護実践にまで発展させることを目指した研究課題の設定、適切な分析方法の選定、倫理的配慮を踏まえた研究計画の立案を行う。個人や家族、コミュニティとの社会的相互作用の視点を確保し、データの解釈と深い洞察による結果の厳密性の確保、Grounded on data による分析結果の信頼性の担

保を行う。結果に基づき独自の看護理論及び生成された理論の実践的活用を提示する。博士論文を作成し自立して研究を遂行できる能力を修得し、母性看護学の発展に寄与する能力を養う。

・木村安貴

がんを患いながらもその人らしく生きることを継続的に支援するために、がん患者やその家族が直面する全人的な苦痛を捉え、地域文化の特性を踏まえた実践的な支援方法を探究する。国内外の先行研究を通して研究課題に関連する概念や理論、地域文化との関連、現状と課題を捉えたうえで、研究目的を明確化する。研究目的を達成するために、様々な分野の研究手法に視点を広げ、最も適切な研究方法を捻出し、倫理的配慮を踏まえたうえで研究計画を立案する。研究計画に基づき、データ収集においては十分な技術を習得したうえで、観察力及び洞察力を駆使して実施する。得られたデータは客観的かつ批判的に分析し、論理一貫性、新規性・独創性のある博士論文を執筆する。研究成果は国内外の学会や学術学会等で公表し、一定の評価を受けることで、研究課題に対する俯瞰的な視点を養う。これら研究活動のプロセスを通して、がん看護学の発展及び看護実践に寄与する研究能力を培う。

４．テキスト

特に指定しない。関連図書に関しては各担当者より適時、掲示する。

５．準備学習

計画的に進めること

６．成績評価の方法

研究計画書の作成、研究遂行、論文作成の状況、博士論文審査、公開発表会の発表及び質疑応答の状況に基づき、総合的に評価する。

７．履修の条件

特になし

８．その他

・研究指導教員及び研究指導補助教員は、ゼミ形式の授業を基本として論文指導を行う。また、個々の学生の必要性に応じて、研究課題に関連する分野の教員から助言を得られるように支援する。
・研究実績報告書（1 年間の自身の取り組みの成果及び評価）は、毎年、記載し提出するものとする。